2026年11月12日

各　位

会 社 名　株式会社力の源ホールディングス
代表者名　代表取締役社長兼CEO　　山　根　智　之
（コード番号：3561　東証プライム）
問合せ先　IR室　室長　　藤　澤　成　駿
（TEL. 03-6264-3899）

2027年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2026年5月14日に公表いたしました2027年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想と実績に差異が生じましたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向等を踏まえ、同日に公表いたしました通期連結業績予想を修正いたしましたので下記のとおりお知らせいたします。

記

1．2027年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想と実績の差異（2026年4月1日～2026年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	19,152	930	957	626	20.67
実績値（B）	18,504	460	496	173	5.76
増減額（B）－（A）	△648	△470	△460	△453	－
増減率（%）	△3.4	△50.5	△48.1	△72.3	－
（ご参考）前期第2四半期実績（2026年3月期第2四半期）	17,295	956	990	1,007	33.50

2．2027年3月期通期業績予想の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	40,125	2,595	2,638	1,807	59.61
今回発表予想（B）	38,408	1,512	1,564	843	28.02
増減額（B）－（A）	△1,717	△1,083	△1,074	△964	－
増減率（%）	△4.3	△41.7	△40.7	△53.3	－
（ご参考）前期実績（2026年3月期）	36,261	2,325	2,582	1,829	60.78

３．差異及び修正の理由

国内店舗運営事業では、新規出店や夏季限定商品の投入等により売上高は堅調に推移したものの、中国からのインバウンド需要の減少や猛暑による一部店舗の客数減少の影響により、当初の想定を下回りました。利益面では、原材料や物流費の上昇により売上原価率が前年同期から0.9ポイント上昇したことに加え、新規出店に伴う開店初期費用や大型店舗の移転に伴う一時的な休業等の一過性の要因、人件費等のコスト増加により営業利益率が低下し、セグメント利益は当初の想定を下回りました。2026年8月12日より実施した一部商品の価格改定による客単価の上昇に加え、現場力推進ブロックの強化やDX施策により収益性の改善を図ってまいりますが、上半期の低下分を下期で取り戻すには至らない見込みです。

海外店舗運営事業では、インフレの継続による消費マインドの低下や異常気象、人流の変化等により来店客数が減少し、売上高は当初の想定を下回りました。利益面では、原材料価格、賃金及び家賃の上昇等のコスト増加により、セグメント損益は当初の想定を下回り、営業損失となりました。不採算店舗の戦略的閉店や出店エリアの再選定によるポートフォリオの最適化に加え、新業態「Ramen Mania」や米国中西部ベントンビル等での新商圏・新モデルの運営に着手しております。事業再編の実行には一定の期間とコストを要する見込みですが、収益性の回復を着実に進めてまいります。

商品販売事業では、国内外で販路の拡大を進めておりますが、売上高は当初の想定を下回りました。利益面では、原材料、物流費及び人件費等の上昇により、当初の想定を下回りました。今後も販路と商品ラインナップの拡充を進め、売上高及び利益の改善に努めてまいります。

以上のとおり、当中間連結会計期間の実績が前回発表予想を下回ったこと及び通期の業績が前回発表予想を下回る見通しとなったことから、2027年3月期通期連結業績予想を修正いたします。また、2027年3月期の配当予想（中間12円00銭、期末12円00銭、年間24円00銭）に変更はありません。

なお、当社は、上記の減益要因のうち、新店の開店初期負担及び店舗の移転・休業等を一過性のものと捉えております。売上原価率の上昇に対しては、価格改定や調達・物流の見直し等を実行しております。国内既存店の売上高は、前年を上回って推移しており、新店につきましても、開店初期を過ぎた店舗の損益は改善しております。海外では、直近、米国及びオーストラリアにおいて、現地通貨ベースの既存店売上高の前年比が改善傾向にあり、シンガポールにおいても前年並みの水準で推移しております。また、米国中西部のベントンビルに新規出店したほか、インドネシアではハラル対応の新業態「Ramen Mania」を出店するなど、新規エリア・新市場での展開に取り組んでおり、今後、事業拡大を進めてまいります。業績の回復には一定の期間を要する見込みですが、これらの施策を着実に実行し、中長期的に再び成長軸に乗せてまいります。

（注）上記の予想値は、現時点において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

以上